

米国トウモロコシの作付：

意思決定と最新情報

URL

<https://www.youtube.com/watch?v=PEj2JENtgLU&feature=youtu.be>.

第1部 ナレーター：

2014年の米国のトウモロコシの作付は、4月時点ではすでに進行している状態ですが、この生産者が説明するように、今年の作物計画策定はそれよりずっと前に始まります。

生産者1：ポール・ヤスケ氏

我々は次の春に向けて作付の決定作業を開始しますが、実際にはそれは収穫時期に始まります。

まず様々な品種の収量の結果に注目し、それらと比較し、次にその特定時期のトウモロコシの収入を代替作物、すなわち我々にとっては大豆なんです、それと比較してみてどうかということを考えてみるんです。

そうですね、秋の収穫時期の最初の頃にはすでに、正確には9月には春の計画作りを開始しています。

第2部 ナレーター：

作付決定には、採算性の傾向から肥料の価格や輪作計画に至るまでありとあらゆるものが含まれますが、それだけでなく、精密農業の科学的情報やデータも含まれます。

ネブラスカの実験者であるデーブ・ニールセン氏は、自分の意思決定プロセスには収量や土壌地図も含まれていると言います。

生産者2：デーブ・ニールセン氏

我々は農場内のすべての圃場の地図を作っています。ここ3、4年ほどはずっとそうです。

来歴がわかるこの地図を利用して、過去に良い結果が得られたことと、今後良い結果が得られるであろうと我々が信じることとの関連性を考えます。

作付密度をどうしたいか、特定の圃場にどの品種を作付するかを決めるために、広範な土壌試験を実施し、土壌の栄養レベルの見極めも行います。

第3部 ナレーター：

近年、多くの生産者が精密農業に基盤を置いています、これは実際に効率や持続性の改善に役立っています。

オハイオのこの生産者が説明してくれるように、意思決定プロセスの一環として、自分たちが生産する作物が国外で市場性を持っているかどうかという点を考慮する生産者もいます。

生産者3：ジョン・リンダー氏

ここではルートワームの問題が最小限にとどまってくれたので幸運でした。

最近の懸念事項となっている特性の大半がルートワームの遺伝的性質に関するものです。

すべての承認が下りる前の現時点では、そうしたものと無縁でいられます。

生産者の中にはそれほどの贅沢が許されない人たちもいます。我々には得られる限りの新しい特性が必要です。

第4部 ナレーター：

作付時期がやってくると、天候が重要な要因となります。

生産者が尋ねるのはいつも、天候は平年どおりなのかということです。

カンサスの生産者であるテリー・ヴィンダスカ氏はその問いに対して優れた回答を知っています。

生産者 4: テリー・ヴィンダスカ氏
カンサスには平年どおりの一年などというものはありません。

雨が降り過ぎるか、雨が降らなさすぎるか、寒すぎるか、何か普通ではないことが起こるのです。

第 5 部 ナレーター：
そして、今年はコーンベルト地域一帯で寒すぎ、雨が降りすぎました。

生産者 1 再び：ポール・ヤスケ氏
我々の作付は約 2 週間遅れていますが、例年どおりの春であれば、多分トウモロコシの背丈はちょうど今時分はこの程度になっていると思います。写真を見て頂ければ分かると思いますが、現在、最初に作付したトウモロコシが地面からちょうど顔を出したところです。

だから心配はありません。6 月か 7 月、あるいは 8 月の気温が少しばかり高くなれば、スケジュール通りに例年並みの収穫ができるでしょうし、例年よりも早まることもあり得ます。

夏の気候が重要な要因です。

第 6 部 ナレーター：
デーブ・ニールセン氏は作付が 2、3 日遅れたと言います。気温が低く、雨が多かったため、シーズンの最初の頃は農作業ができなかったのです。

それでも、彼は心配しませんでした。

生産者 2 再び：デーブ・ニールセン氏
米国の生産者には最近獲得した能力があり、短期間で大量のトウモロコシを作付できるようにな

りました。

最終部 ナレーター – 図解：
全米トウモロコシ生産者協会のこの図が示すように、ニールセン氏は正しかったのです。

気候が改善し、米国の生産者は 5 年平均に追いつき、5 月末までに多くの生産者が作付を終えました。